

これまでの高松塚古墳壁画の保存方針について

1. 経緯

- 昭和47年(1972)：壁画発見(3/21) ※発掘調査(3/1より明日香村・樞考研)
史跡指定(6月)、特別史跡(昭和48年4月)
- 48年(1973)：現地保存方針を決定(高松塚古墳保存対策調査会にて)
- 49年(1974)：壁画を国宝指定(4/17)
- 51年(1976)：保存施設竣工
- 62年(1987)：『国宝高松塚古墳壁画-保存と修理-』刊行
- 平成13年(2001)：取合部天井の崩落止め工事、取合部にカビ大発生 等
- 14年(2002)：カビ処置等の作業中に壁画損傷事故
- 16年(2004)：国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策検討会設置・検討
『国宝高松塚古墳壁画』刊行
→壁画の劣化報道

※墳丘内の土中環境において壁画を現地保存するこれまでの保存方針では壁画の劣化を食い止めることは極めて困難との判断がなされ、以下の保存方針案について検討。

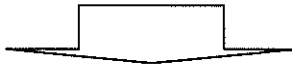
【保存方針案(5案)】

- 第1案 施設・機器更新を行い、現状で保存する。
- 第2案 墳丘ごと保存環境を管理する。
① 覆屋のみを設置する。
② 墳丘を地盤から隔絶して管理する。
- 第3案 石室のみ保存環境を管理する。
① 墳丘の外観を残し地盤から隔絶して管理する(パイプーフ工法)
② 墳丘を解体し地盤から隔絶して管理する(オープンカット工法)
- 第4案 石室を取り出して修理する。
- 第5案 壁画を取り出し保存施設で管理する。

- 17年(2005)：同検討会において「石室を取り出して壁画の保存修理」を恒久保存方針として決定

【恒久保存方針】

- 古墳から石室を取り出して、「解体修理」を行うこと。
- (1) 石室ごと壁画を古墳から取り出す。
- (2) 取り出した石室を適切な施設において、壁画及び石材の修理を含めた保存措置を施す。(おおよそ10年間をメド)
- (3) 将来的には、カビ等の影響を受けない環境を確保し、現地に戻す。



恒久保存方針に基づき、石室ごと壁画を古墳から取り出し、現在、修理施設において壁画及び石材の修理を実施しているところ。

- 石室解体作業：平成19年4月～8月
- 壁画の仮設修理施設：平成19年3月竣工
- 壁画及び石材の修理作業：平成19年4月～（応急修理～）
- 高松塚古墳壁画劣化原因調査検討会：平20年7月～平成22年3月
 - ※『高松塚古墳壁画劣化原因調査報告書』刊行：平成22年3月
- 仮設修理施設修理作業室の一般公開：平成20年5月～（これまで9回）

なお、高松塚古墳の墳丘等については、壁画及び石材を現地に戻すまでの間の措置として、仮整備を実施したところである。（平成21年9月）

2. 壁画及び石材の修理方針

取り出した壁画及び石材の現状確認、応急処置等を経て、現在、仮設修理施設において本格的な修理作業を実施中。

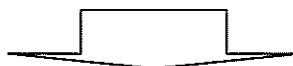
【修理方針】

壁画の現在の状態をこれ以上悪化させないための最低限の処置を基本とし、壁画の安定化を目指すため、以下の修理作業を実施中。

- (1) 石材ごとの詳細な損傷状態図面の作成
- (2) 漆喰層の強化措置（精製したふのり等を使用）
- (3) 図像のない余白部分のクリーニング作業
 - ・次亜鉛素酸ナトリウム水溶液または四級アンモニウム塩水溶液を用いる方法
 - ・紫外線を用いる方法



恒久保存方針の恒久保存工程では、「壁画の修理及び保存処理が終了した後、カビ等の影響を受けない環境を確保した上で、現地に戻すこととする。具体的な内容は、壁画の修理及び保存処理工程の段階で壁画の状況を勘案しつつ、検討会において検討を行うこととする。」とされている。





(参考：高松塚古墳壁画劣化原因調査報告書から)

【高松塚古墳壁画劣化原因調査報告書 (p91～92より抜粋)】

12. 今後の課題

「～今後とも壁画の現地保存方針を貫くことは、現時点における科学的・技術的水準の下では、容易ではないという事実であろう。高温多湿な我が国の文化財を取り巻く環境において、漆喰壁画を現地保存することは、特に生物制御の観点から極めて難しい問題を抱える。」

3. 壁画の現状

- ・ 東壁石：女子群像
 - ・ 西壁石：女子群像
 - ・ 天井石：星宿図
- ※添付写真参照



古墳壁画の保存活用に関する検討会において、壁画修理後の検討を始める。

東壁石3(女子群像)



壁画取り出し後
(平成19年)

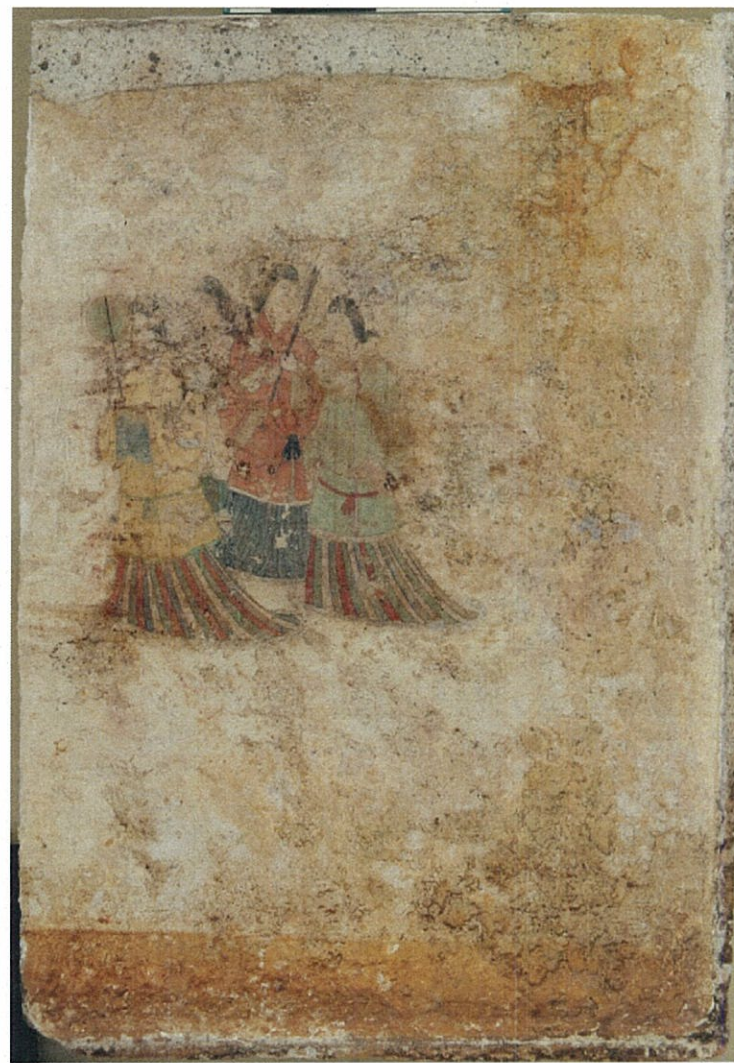


現状
(平成25年3月)

西壁石3(女子群像)



壁画取り出し後
(平成19年)

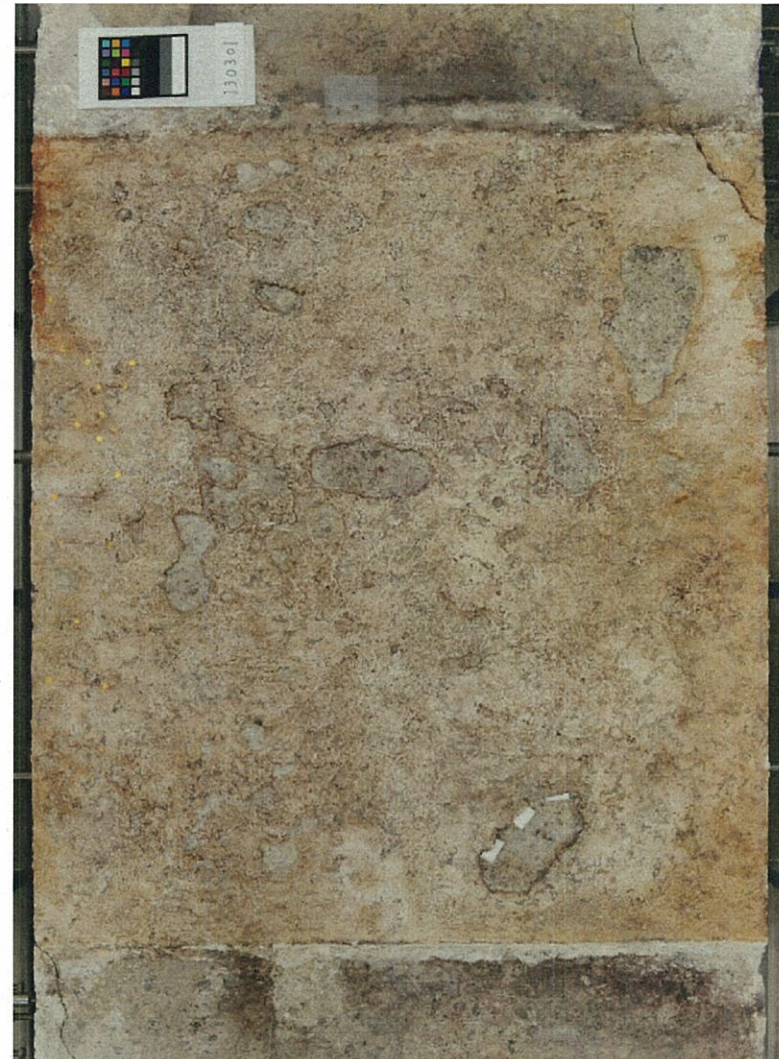


現状
(平成25年3月)

天井石3(星宿図)



壁画取り出し後
(平成19年)



現状
(平成25年3月)